

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472400324
法人名	社会福祉法人 日就会
事業所名	グループホーム 悠里の郷
所在地 (電話番号)	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1 (電話) 0223-34-0281
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 2月 21日

【情報提供票より】(平成19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.38人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平家造り 階建ての 階 ~ 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,100 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南浜中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4月に管理者が交代し、退去など入居者にも変動がみられた。「ホームとしての基盤は確立されているので、安定したレベルでの支援を果たしている。」と管理者は述べている。職員、家族、運営者との協働が保たれ、医療体制の充実が顕著なホームである。全員で取り組んだ自己評価は厳しく、現状に満足せず、課題に向けて工夫し合う姿勢があり共感できる。家族等からの要望、苦情の表明が少ないのは、どのホームにも共通しているように思えるが、入居者の思いの把握や関わりを職員に定期的に答えてもらい、相互に確認し合っており、玄関への「意見箱」設置も試みようとしている。入居者と日々共に生活している中で「ちょっとでもその人らしい思いが発見でき、支援することで笑顔が見られた時が嬉しい」と話してくれた職員。明るい展望が開けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>緊急時の手当てへの不安解消と、救急救命の訓練実施が改善項目となっていたが、今年度「看護マニュアル」の研修を受講し、受講者がその後全員への知識、技術の共有に努め、職員の不安の軽減に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を配布し、全員で話し合いの上とりまとめている。外部評価後はホーム内に掲示し、運営推進会議で報告している。職員には会議で報告し改善取り組みについて、具体的な検討、実践を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ほぼ定期的に開催し、関係委員の助言、指導を受けながら、家族の要望、意見の取りいれをしている。通院時の支援依頼や感謝の気持などが述べられた。運営推進会議の議事録の家族への報告は、概要を「便り」の中で行なっているが、今後もより一層徹底したいとしている。</p>
重点項目③	<p>家族からの相談、苦情は少ないが、ホーム担当者、公的機関、第三者委員を重要事項説明書に明記し、面会時にも聞いている。より気安い利用を図るため、玄関への「意見箱」設置も検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会への加入が未実施であり、地域との関わりも日常的とは言えないが、区長、民生委員が運営推進会議を通して助力、支援、つなぎ役も果たしてくれている。畑作りや手作りサークルなどボランティアの訪問も実施され、ホーム独自の芋煮会も回を重ね、家族、近隣住民も馴染み参加している。今後より交流を深め、地域行事等への参加に努力したいとしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時に管理者、職員で作成した、独自の理念である。地域社会と協力して入居者と共に生活する視点を持ち、理念の10か条に明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関に常に目に触れるように理念を掲示し、また、理念のケアへの反映がマンネリ化しないように、全職員へのアンケートを実施し、共有と実践の確認を行なうなど努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人特養ホームと合同での夏祭り、児童館との触れ合い、また、ホーム独自で芋煮会も実施し、地域との交流に努めている。畑仕事の手伝い、指導や手作りサークルの訪問などボランティアによる支援もあるが、町内会への加入はまだであり、満足してはいない。	○	静かな住宅地にあり、馴染みの関係は深まりつつある。区長、民生委員は運営推進会議に出席し近隣住民とのつなぎ役も果たしているが、ホームからの地域に向けた日常的な活動や必要とされる役割などへの参加に不足が感じられる。地域行事への参加の機会を増やしていくとしており、期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に渡し、それぞれが記入し、ユニット毎に話し合いとりまとめている。外部評価後はホーム内に掲示し、前年要改善とされた緊急時への対応と手当てについて、「看護マニュアル」を受講し、全員への知識、技術の共有もしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームからの報告や特養苑長、栄養士による研修も入れながら定期的に開催し、家族からは通院支援への要望や感謝の気持など述べられている。家族への報告は「便り」の中で行なっているが、今後もより一層徹底したいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの様子について報告し、現状の把握もされている。市町村担当者等関係者には、ホームの見学等も働き掛け、より緊密な関係維持に努力し、取り組みもうとする姿勢がみられる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、日ごろの暮らしぶりを伝え、月に一度の請求書郵送時に、担当者による「生活の様子」と金銭管理の報告も同封している。入居者の健康状態などに変化がみられた場合は、電話で報告するなど、家族の安心への配慮もみられるが、職員の異動についての報告はより綿密に報告することが望ましい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談の窓口としてホームの担当者、公的機関、第三者委員を重要事項説明書に明記し、面会時にも伝えている。通院時の職員の支援や、話し相手の希望など寄せられた相談には結果報告もされ、適切に対処しているが、職員異動時における家族への報告は、より綿密に行なっていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動が入居者、家族に与える不安や不満についてよく理解し、淋しそうにしている時は皆で明るく声掛けするなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、パートの区別なく、研修の機会を計画し、ホームの質の向上に努める姿勢があり、順次内外の研修への受講を進めている。ケアマネージャーや介護福祉士の資格取得に向け、受験者も多く、学ぶ意欲は高い。しかし、今年度はパート職員への研修機会が少ないとしている。	○	外部研修への受講の機会やグループホーム連絡協議会での研修、相互訪問など積極的に計画に取り入れ、職員の資質向上を図り、入居者、家族の信頼と安心に応えようとしており期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある同法人の特養施設との日常的な交流や、県のグループホーム連絡協議会内相互の交流はある。しかし、他施設、同地域のグループホーム同士の交流や勉強会への活動参加を不足と感じており、今後積極的に取り入れたいとしている。	○	外部の同業者との交流や相互研修など、機会が多いほど学び、育成に役立つことはよく理解している。働きながらの交流に工夫し、今後身近な近隣グループホームとの交流の場を相談し合っているのが期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談、入居希望を受けて、入居者、家族、ケアマネジャーにホームを見学してもらい、納得した上での利用開始としている。また、入居後でも本人の様子をみながら、家族と相談を重ね、ホームでの落ち着いた安心できる居場所作りへの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩時に道端の草花の名前を教わり共に感動したり、昔からの慣わしや、暮らし、戦争時の体験談など、広範に情報を得、干し柿作りなど身についた季節毎の生活習慣をホームでの生活リハビリとして取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は共に生活する中で、ほんの少しでもその人らしい思いの発見に努め、喜びにつながる支援に結びつけたいと、話してくれた。生活歴や思いの把握について、定期的に職員にアンケート用紙で答えてもらい、入居者の意向、要望把握の再認識の機会としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時には十分時間をかけて説明し、意見、要望も聞き、ケアプラン作成時は入居者毎のケア担当者と綿密に検討し、全員の意見を反映させている。また、今後定期的に本人、家族にも会議に出席してもらい、話し合いたいとしており、作成したケアプランは、生活援助計画、モニタリング総括表と共に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの設定期間前に担当者、ケアマネジャーと話し合い検討している。入居者の状態に変化がみられたり、家族等からの要望、相談が寄せられた時はその都度現状に合わせ、プラン変更の上作成し、家族に渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時や馴染みの美容院等への外出、希望による買物代行など、状況に合わせて支援している。正月には自宅への外泊をしたり、家族が希望すればホームに泊まることもできる。今後ショートステイへの取り組みも検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員がかかりつけ医の継続を希望し、通院付き添いは通常家族が行なっている。直近のバイタル表や特記事項などコピーで渡すなど、スムーズな受診への支援を行っている。協力病院との連携もよく、院長は月に1度ホームを訪れ、入居者、職員の相談にも応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が毎日午後ホームを訪問し、健康チェックやリハビリ体操など実施している。口腔チェックや指導、月に一度ホームでの協力医師の回診も実施され、医療体制は万全である。しかし、入居者の重度化や終末期に向けての家族との話し合いや、ホームの方針の統一、指針の明記はこれからとしている。	○	重度化や終末期にむけてのホームとしての方針の統一、家族への指針表明、意思確認はこれからであり、医療など関係者間での話し合いと共に早期に取り組まれることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声掛けのトーン、タイミングやケアでの関わりは適切であり、職員同士声を掛け合い、気持ちに余裕を持たせながら、入居者のペースに添った入浴など生活への支援もみられた。特に個人情報の取り扱いについて配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひな人形が飾られた居間に寄り合い、また、ベッドで憩い、玄関で煙草を吸い、自由に過ごしている。個別のドライブや買物への希望にもできるだけ対応している。入居者の安心で落ち着いた暮らしぶりがみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材係、メニュー係が連携して、入居者の好みも配慮した献立を作っている。時に弁当や寿司を外注して気分を変え、職員も一緒に食事し、食後は皆で団欒し、薬など手渡ししながらゆったりと過ごし、片付ける様子もみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を勧めている。希望、体調に合わせ無理のないように支援し、概ね夕食前に済んでいる。積極的に入りたがらない人も3日に一度は入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップがけ、洗濯物の取りいれ、たたみ、食後の後片付け、草刈り、畑仕事などおおよそ役割が決まっており、生活歴を把握し経験、慣わしを生かした干し柿作りにも取り組み、ドライブ、散歩、デイ施設での民謡、踊りにも出掛け楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周りや隣接の同法人特養施設敷地内の散歩、ドライブは時期を問わず天気の良い日は出掛けている。勧めても出掛けたがらない利用者もいるが、時に近距離の店で外食したり、空港、海に出掛けたり工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵は掛けず、自由に入出入りしている。一人ひとりの外出傾向などを把握しており、荷物をまとめたり、落ち着いた様子に分るので、伝え合って見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同法人特養施設と合同の非常招集訓練、非難訓練は実施しているが、ホーム独自の訓練は未実施である。災害時の備蓄については、水、缶詰、かんぱん、こんろなどホーム独自に用意している。	○	今後夜間想定でのホーム独自の避難、誘導訓練や、災害時、火災時など町内会との連携、地域の方々からの協力へのお願いを運営推進会議で提案もしながら働き掛けていくとしているので、是非お願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎の食事、水分量は把握しており、疾病による制限のある入居者はいない。月に一度体重チェックをし、過度の増減が生じないように気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく清潔に保たれ温、湿度も適切で快い。入居者が寄り合う居間には、ひな人形飾りもあって季節の移ろいへの配慮も感じ取れる。職員は穏やかなトーンでゆっくりと話し掛け、テレビも観ない時や食事時間帯はスイッチを消しており居心地よく、落ちつける暮らしがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて居心地よく生活出来るように、入居時に家族に相談し、本人に馴染みの品を持ち込んでいる。家族写真やテーブル、箆笥など色々であるが、遺影を飾り、お供え物をし安心して生活している方もいる。		